

# 平成 16 年 3 月期 第 3 四半期業績の概況（連結）

平成 16 年 2 月 6 日

上場会社名 タカノ株式会社

（コード番号：7885 東証第 2 部）

（URL <http://www.takano-net.co.jp/>）

問合せ先 代表者役職・氏名 代表取締役社長 鷹野 準 （TEL：（0265）85 - 3150）

責任者役職・氏名 常務取締役 野溝 郁文

## 1. 四半期業績の概況の作成等に係る事項

会計処理の方法の最近連結会計年度における：有

認識の方法との相違の有無

（内容）

法人税等の計上基準………法定実効税率をベースとした年間予測税率により計算しております。  
 その他影響額が僅少なものにつき、一部簡便的な手続きを用いております。

連結及び持分法の適用範囲の異動の状況：無

公認会計士又は監査法人による関与の有無：無

## 2. 平成 16 年 3 月期第 3 四半期の業績概況（平成 15 年 4 月 1 日～平成 15 年 12 月 31 日）

### (1) 経営成績（連結）の進捗状況

（注）記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

	売上高		営業利益		経常利益		当期(四半期)純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
16 年 3 月期第 3 四半期	13,172	-	528	-	536	-	335	-
15 年 3 月期第 3 四半期	-	-	-	-	-	-	-	-
(参考)15 年 3 月期	18,886		990		1,037		560	

	1 株当たり当期純利益		潜在株式調整後 1 株当たり当期純利益	
	円	銭	円	銭
16 年 3 月期第 1 四半期	21	77	-	-
15 年 3 月期第 1 四半期	-	-	-	-
(参考)15 年 3 月期	35	44	-	-

（注）四半期業績の開示については、本年度第 1 四半期より実施しておりますので、前年第 3 四半期の実績は記載しておりません。また、対前年同期比増減率の記載は省略しております。

### [ 経営成績（連結）の進捗状況に関する定性的情報等 ]

当第 3 四半期（9 ヶ月）におけるわが国経済は、企業収益の改善による設備投資の増加傾向および IT 産業を中心とした製造業の輸出増加など、特に第 3 四半期末にかけ景気は回復傾向にあるものの、依然、厳しい雇用環境にともなう個人消費の底ばい状態等から、デフレ脱却までにはなお時間を要するものと思われ景気回復に向けては予断を許さない状況が続いております。

当社グループの主力商品が関係するオフィス家具業界におきましては、首都圏を中心にオフィス家具需要が回復基調にあり、本年 4 月から本年 11 月までの 8 ヶ月間におけるオフィス椅子の販売は前年同期比数量、金額ともに微増で推移するなど、需要減少の底打ちが見えてまいりました。

また、当社グループのもう一つの主力商品である画像処理検査装置分野が関係する液晶をはじめとする FPD（フラット・パネル・ディスプレイ）製造装置業界におきましては、日本・韓国・台湾の液晶メーカーにおける設備投資はさらに拡大基調にあり、PDP（プラズマ・ディスプレイ・パネル）メーカーもさらなる民生需要拡大を見込み、設備投資を拡大させるなど、業界における事業環境は好調に推移いたしました。

当社グループはこのような環境下において、OEM 事業においては需要動向に左右されにくい収益体質を構築するため、合理化の推進による徹底したコストダウンの実施および受注拡大のために積極的な新製品開発を図ってまいりました。

エレクトロニクス関連事業においては、画像処理検査装置生産体制の拡充をはかるとともに、「フォトスペーサー高さ計測装置」など液晶製造プロセスの変化に即応した製品の開発および次世代サイズの液晶パネル製造ライン向けの受注活動に注力してまいりました。

この結果、当第 3 四半期は概ね計画に沿った業績の進捗であり、売上高 13,172 百万円、営業利益 528 百万円、経常利益 536 百万円、当期（四半期）純利益は 335 百万円となりました。

## (参考1) 連結セグメント別売上高の概況

(単位：百万円)

	当第3四半期 (平成15年4月1日～平成15年12月31日)		前事業年度 (平成14年4月1日～平成15年3月31日)	
	金額	構成比	金額	構成比
OEM事業	7,081	53.8%	12,369	65.5%
エレクトロニクス関連事業	5,362	40.7%	5,709	30.2%
その他の事業	729	5.5%	806	4.3%
合計	13,172	100.0%	18,886	100.0%

## (参考2) 当社単独品目別売上高の概況

(単位：百万円)

	当第3四半期 (平成15年4月1日～平成15年12月31日)		前事業年度 (平成14年4月1日～平成15年3月31日)	
	金額	構成比	金額	構成比
オフィス家具	5,369	43.1%	8,798	48.6%
ユニット(ばね)	941	7.6%	1,529	8.5%
エクステリア	412	3.3%	1,700	9.4%
エレクトロニクス関連	5,364	43.1%	5,715	31.6%
健康福祉機器	359	2.9%	343	1.9%
合計	12,446	100.0%	18,087	100.0%

## (参考3) 四半期個別経営成績の概況(平成15年4月1日～平成15年12月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期(四半期)純利益
16年3月期第3四半期	12,446 百万円	432 百万円	448 百万円	285 百万円

## (2) 当該四半期において企業集団の財政状態に重要な影響を与えた事象

当該四半期において、企業集団の財政状態に重要な影響を与えた特別の事象はございません。

## 3. 平成16年3月期の連結業績予想(平成15年4月1日～平成16年3月31日)

	予想売上高	予想経常利益	予想当期純利益	1株当たり予想当期純利益
通 期	19,000 百万円	1,150 百万円	710 百万円	45 80 円 銭

## [業績予想に関する定性的情報等]

今後も企業収益の改善による設備投資の増加傾向は継続するものと思われ、世界経済の回復のなか国内経済においても回復基調で推移するものと考えられます。

当社グループにおいても、企業収益の改善による設備投資の増加傾向を受けオフィスに対する投資意欲も改善へ向かうことが予測されるとともに、FPD向け検査装置需要も拡大基調で推移することが予測されるなど明るい兆しも見えてきております。

このような状況のもと、当社グループは引き続き、OEM事業においては世界に誇れるレベルの商品を市場に提供するための商品開発力のさらなる強化、新規取引先の開拓および経営効率の向上を図るための思い切った合理化に注力するとともに、需要動向が好調であるエレクトロニクス関連事業においては、受注拡大に対応した生産体制の拡充および新市場への参入を果たすべく、様々な新技術開発に注力することによって事業基盤のさらなる拡充を図ってまいります。

なお、OEM事業の主力製品であるオフィス椅子の需要は季節性を有しており、例年第4四半期が最需要期となっております。

以上の見通しにより通期の業績予想につきましては、連結業績、単独業績とも平成15年11月14日の中間決算発表時に公表した予想に修正はございません。

(参考4) 平成16年3月期の個別業績予想(平成15年4月1日~平成16年3月31日)

	予 想 売 上 高	予 想 経 常 利 益	予 想 当 期 純 利 益	1株当たり年間予想配当金	
				期 末	
通 期	百万円 18,200	百万円 1,100	百万円 650	円 銭 17.00	円 銭 17.00

1株当たり予想当期純利益(通期) 41円91銭

業績予想につきましては、現時点で入手可能な情報に基づき当社で判断したものであります。予想には様々な不確定要素が内在しており、実際の業績はこれらの予想数値と異なる場合がありますので、この業績予想に全面的に依拠して投資等の判断を行うことはお差し控えください。

以 上

(添付書類)

1. 第3四半期要約連結損益計算書
2. 第3四半期要約損益計算書(単体)

1. 第3四半期要約連結損益計算書

	当第3四半期会計期間		前連結会計年度の 要約連結損益計算書	
	自 至	平成15年4月1日 平成15年12月31日	自 至	平成14年4月1日 平成15年3月31日
	金額(千円)	百分比(%)	金額(千円)	百分比(%)
売上高	13,172,678	100.0	18,886,029	100.0
売上原価	10,644,232	80.8	15,323,077	81.1
売上総利益	2,528,445	19.2	3,562,951	18.9
販売費及び一般管理費	1,999,742	15.2	2,572,653	13.6
営業利益	528,703	4.0	990,297	5.3
営業外収益	47,458	0.4	76,384	0.4
営業外費用	39,575	0.3	29,603	0.2
経常利益	536,585	4.1	1,037,078	5.5
特別利益	55,180	0.4	94,138	0.5
特別損失	15,500	0.1	99,103	0.5
税金等調整前第3四半期(当期)純利益	576,265	4.3	1,032,114	5.5
法人税等	240,622	1.8	471,474	2.5
第3四半期(当期)純利益	335,643	2.5	560,639	3.0

2. 第3四半期要約損益計算書（単体）

	当第3四半期会計期間		前事業年度の要約損益計算書	
	自 平成15年4月1日 至 平成15年12月31日		自 平成14年4月1日 至 平成15年3月31日	
	金額（千円）	百分比（%）	金額（千円）	百分比（%）
		%		%
売上高	12,446,734	100.0	18,087,283	100.0
売上原価	10,189,694	81.9	14,703,868	81.3
売上総利益	2,257,039	18.1	3,383,415	18.7
販売費及び一般管理費	1,824,711	14.7	2,362,961	13.1
営業利益	432,328	3.5	1,020,453	5.6
営業外収益	54,874	0.4	77,700	0.4
営業外費用	38,686	0.3	30,427	0.1
経常利益	448,515	3.6	1,067,726	5.9
特別利益	57,711	0.5	97,153	0.5
特別損失	9,505	0.0	99,103	0.5
税引前第3四半期(当期)純利益	496,721	4.0	1,065,777	5.9
法人税等	210,919	1.7	452,450	2.5
第3四半期(当期)純利益	285,802	2.3	613,325	3.4